

令和6年度 能美市立粟生小学校 学校評価

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 <成果指標><努力指標> <満足度指標>	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況 (中間評価)	評価	今後に向けて	取組状況 (最終評価)	評価	来年度に向けて
1 組織的な学校運営 (チーム粟生小)	【安心・安全な学校づくり】 全教職員協力のもといじめ・不登校等の未然防止と早期発見、組織的な対応に努める。	教頭	<努力指標> 未然防止に向けた教師による児童の居場所づくりと、いじめ等記録シート、欠席状況共有アプリ等を活用した早期発見・早期対応にむけた取組の徹底を図る。終了後に、児童情報を共有化する時間をとる。	児童が安心・安全で、楽しいと思う学校とすることができた。 教師:実施状況 児童:アンケート A:毎回共有化の時間をとった A:学校は安心・安全で楽しい(90%) B:ほぼ共有化の時間をとった B:学校は安心・安全で楽しい(80%)	必要な情報の共有化の時間をとることはできたものの、児童アンケートの回答結果は88%であった。	B	アンケートで学校が楽しいに否定的な回答をした児童に焦点をあてた手立てをとる。いじめ等記録シートを直し、児童の不安に組織的、継続的に見取り、対応していく体制を強化する。			
	【共通理解と共通行動】 学力向上ロードマップを用いてPDCAサイクルを実働させることで、組織的で機動的な学校運営を実現させる。	各主任	<成果指標> 主任会議において、学力向上ロードマップに基づいた取組状況の確認、検証、改善策の協議、共通行動の確実な実践に取り組んでいる。	学力向上ロードマップをもとに、組織の目的と自分の役割を認識し遂行することができた。 教師:実施状況 A:月単位の認識、遂行ができた(90%) B:月単位の認識、遂行ができた(80%)	ロードマップを各主任ごとに認識し、すべ取組を遂行することはできた。ただし、各主任が各校で進捗に基づいて他分掌の取組について検証したり改善策を協議したりする分節は不足していたように感じる。	A	主任会でロードマップを基に進捗状況(達成度)を確認し、メーカーでチェックすることを継続する。それぞれの主任の振り返りに対して、相互にフィードバックする機会を加える。			
	【業務改善ワークバランスの確立】 各教職員の専門性を生かし、適切な時間管理を行いチーム学校として最善を尽くす。	教頭	<努力指標> ・学力向上ロードマップをもとに、役割分担の明確化と業務の標準化を図る。 ・校務にクロムブックを活用し、効率化をはかる(Chat機能を活用し、伝達にかかる時間の短縮に努める)。 ・業務の見直しに積極的に取り組む。	目標とした時間内の勤務とできた。 勤務時間 A:できた(100%) B:できた(90%)	教務にクロムブックを活用し、効率化を図ることができた。夜間勤務を発生し、業務の標準化を図ったものの、アンケートの回答は59%であった。職務外労働が増えたと、長い人が固定化している傾向もみられる。	C	職員から出た業務見直しの案を検討し、実施する。校務の見直しに加え、個人の働き方についても見直し時間を作り、目標とできる働き方と時間を設定する。			
2 知(確かな学力の育成)	【授業改善】 学ぶ楽しさを実感し、自ら考え、みんなで学びを深め合うことができる児童を育成する。	研究	<努力指標> ・目標を達成した児童の姿を想定し、対話型授業を意図的に実践する。 ・学びを生かした対話型授業を意図的に設定することで、児童に学びの楽しさを実感させる。	・対話型授業を意図的に実践した。 ・友達と関わることで学びが深まった。 教師:実施状況 児童:アンケート A:できた(90%) B:できた(80%以上)	教職員アンケート「対話型授業を意図的に実施することで、児童同士の間わりと学びが深まったと思う。」に対する肯定的な回答は76%、児童アンケート「授業の中で友達と話し合うことで、学びが深まる」という肯定的な回答は90%であった。	C	対話型授業の具体性や価値を共通理解できるように校内研修を計画し、実施する。教師から現状の問題点を聞き取り、2学期以降の共通実践を打ち立て、実践の成果や課題を共有する時間を確保する。			
	【GIGAの推進と学習環境の構築】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を意識し、ICT活用を含めた効果的な学習環境の在り方を模索する。	教務	<成果指標> ・目標達成に向けた学習活動において、学習内容・方法等について自己決定する場と機会を設定する。	学習内容・方法を自己決定するよう指導した。 教師アンケート A:80%以上 B:70%以上	教師アンケートではなく、指導計画・実践記録から79% 毎時間、児童が自由に選択できるようにしたのではなく、教師が選択する機会を与えたときのみに限	B	1学期、ICTを活用した実践例を交流した。この実践例を参考にし、研究と連携して、児童的ICTを活用できる場面を増やしていく。			
	【基礎基本の定着】 授業、補充学習、家庭学習等を通して、基礎基本の定着、活用力の育成を図る。	学習指導	<成果指標> 授業における学習内容と補充学習、家庭学習の内容を関連付け、当該学年でつづけるべき基礎基本の力の定着につなげる。	基礎基本の確かな定着が見られた。 学期末テスト A:90%以上の到達児童が80%以上 B:90%以上の到達児童が70%以上	教師アンケートではなく、指導計画・実践記録から79% 毎時間、児童が自由に選択できるようにしたのではなく、教師が選択する機会を与えたときのみに限	A	漢字88%・計算90% 90%を達成するまで、同じ問題で繰り返し取り組んだ	全校で、朝学や帯タイムで漢字・計算を子どもたちが、粘り強く問題に取り組める素地を養う。		
3 徳(豊かな人間性の育成)	【安心・安全な授業づくり】 生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりを推進する。	生徒指導	<努力指標> 重点とする生徒指導の視点を意識し、授業で意図的に働きかける。	生徒指導の4つの視点を生かした授業を意図的に実践した。 実施状況 A:実践した100% B:実践した80%以上	教職員アンケート「生徒指導の4つの視点を意識した」に対する肯定的な回答は90%であった。	B	「ほめ方」について、研修を通して教職員が吟味し、実践していく。			
	【自治・自主の精神の育成】 児童主体の児童会活動、学級活動を通して主体性・協働性を養う。	生徒指導	<成果指標> 児童会活動、学級活動等において、伝えること、聴くこと、折り合いをつけること等の資質・能力を育むための指導を実践している。	よりよい学校、学級を目指して、自ら進んで、児童会活動や学級活動等に参加し、他者と協力することができたか。 児童アンケート A:できた90%以上 B:できた80%以上	児童アンケートよりよいクラスになる(できる)ように、児童会活動や学級活動に関わる「できた」という肯定的な回答は86%であった。	B	毎月2回、チャレンジタイムで行う「人間関係づくり」の活動を通して、友だちと関わる機会を増やし、コミュニケーションをとることの楽しさを実感させていく中で、自治的精神を養っていく。			
	【豊かな心の醸成】 言葉を大切に思いやり、道徳教育、人権教育、キャリア教育、読書活動の充実を図り、豊かな心の醸成を図る。	道徳推進	<成果指標> 重点内容項目を各学年で設定し、対話を通して自分自身の考えを見出す場をもつ授業を実践している。	児童が自分の考えや生活をよりよくしようという思いを持つ言葉を大切に、対話のある授業を設計、実践した。 教師アンケート A:90%以上 B:80%以上	教師アンケートの回答結果は88%であった。	B	授業の板書などの実践を集約し、紹介したり、県の道徳教育推進センターに向けた研修内容を伝達したりする。校内研修を企画、実施する。			
4 体(健やかな身体性の育成)	【向上心をもって努力する児童の育成】 粘り強く取り組もうとする心を育てるために、目標を立て、努力を重ねようとする態度を養う。	保健体育	<成果指標> 開発力の育成につながる取組について、児童に目標を持たせ、目標に向かって継続的に努力できるように指導している。	体力向上のめあてを達成することができた。 (児童アンケート) A:90%以上 B:80%以上	肯定的な回答は72%と高く自分の目標をもつて3分間なわとびに取り組んでいないことがわかった。	C	体育時の準備運動として取り組むのではなく、3分間の中でのいろいろな跳び方・跳び方、3分間跳びることを目標にできるかという状況に合わせて3分程度のリズムなわとびを体育委員を中心に考え意図的に取り組めるようにする。			
	【安全意識の向上】 交通安全・生活安全・災害安全の取り組みを通し、安全意識を高める。	保健体育	<成果指標> 登下校の安全や休み時間の遊び方、廊下歩行、避難訓練等の指導を行い、安全についての正しい理解につなげている。	安全意識が定着している。 (児童アンケート) A:90%以上 B:80%以上	肯定的な回答が非常に高い数値となっていた。登下校の安全や非登校時の行動については意識できていないことがわかった。	A	定期的な訓練も大切だが、短い時間でも「もしもこんな状況ならどうするか」という状況を想像する時間や自己判断する力をつけるような訓練が今後も必要である。			
	【健康な心身の育成】 メディアコントロールや早寝早起き朝ごはんが意識できる取り組みを行い、健康で望ましい生活習慣の確立を図る。	保健体育	<成果指標> 基本的な生活習慣とメディアに関する指導を行い、よりよい生活習慣の確立に必要なことへの理解につなげている。	早寝早起き朝ごはんの取組を意識し生活を送ることができた。 (児童アンケート) A:できた90%以上 B:できた80%以上	アンケート回答は84%であった。1学期に行われた生活リズムエックでは早寝の割合は他の項目より低くなり、メディアの使用時間が増えることと就寝時間が遅くなる傾向	B	生活リズムチェックシートで今後とも自己の生活を振り返り、意識できるよう取り組む。たよりなどで啓発するとともに、授業参観や懇話会などの機会に保護者・児童が共通の話題でルール決めのするなどの取り組みができればいいか検討する。			
5 家庭・地域との連携	【コミュニティスクールの充実】 CSOとの連携を密にし、活動をより一層充実させることで、地域との連携、協働を推進する。	教頭	<成果指標> CSOとの連携を密にし、活動をより一層充実させることで、地域との連携、協働を推進する。	CSOとの関りの機会 学校運営協議会を計画的に開催すると共に、CSOフィルターとの連携システムを活用し、学校支援の充実を図る。 ※年間計画を立てて、各学年1回以上CSOとの関りをもつ。	学校運営協議会をここまで、3年、5年、6年でCSOの協力を得て授業を計画、実施することができた。 A:計画的に持つことができた B:ほぼ計画的に持つことができた	A	CSOの尽力のおかげで、連携を密にした活動を進めることができた。2学期、3学期の計画を立て、まだ実施していない1年、2年、4年がCSOと関りを持つようにする。			
	【保護者との連携】 保護者、PTAと連携し、よりよい家庭生活習慣の確立に努める。	教頭	<成果指標> 保護者が、家庭学習の目標時間や各家庭でのメディアのルールを守るように働きかけている。	働きかけを行った。 (保護者アンケート) A:働きかけた90% B:働きかけた80%	はたらきかけたとした保護者の割合は85%であった。 B:働きかけた80%	B	保健体育の取組の結果を周知し、メディアのよりよい使い方についての呼びかけを継続する。メディアリテラシーが身につくような指導を学校で継続する。			
	【ふるさと教育の充実】 地域の人・もの・このよさに気づき、いかにその育成に努める。	教頭	<努力指標> ふるさと能美市の良さに気づき、地域の良さを理解しようとしている。	地域理解や貢献につながる活動に取り組めた。 (実施状況) A:取り組めた90% B:取り組めた80%	3年生は地域理解のために総合で能美の子を認める学習に取り組んだ。資源回収、東生館へかき書いた挨拶カードに地域理解を込めて取り組んだ。ただ、児童アンケートによくと、能美市の人やもの、このよさのこころをわかっていないとの回答は80%であった。	B	金曜日隔週に取り組んでいる生徒指導の取組「能美市の手紙」を、ことごとく思いやりの心で書き、地域の人やもの、このよさを口にす。耳にする機会を多く持つようにする。			